

会

日本工業技術教育学会

報

日本工業教育経営研究会

平成 18 年 3 月 31 日

第 31 号

人づくりはものづくり、ものづくりは人づくり

日本工業教育経営研究会 近畿支部長 小田旨計

資源の乏しい日本が生き延びる道は、ものづくり技術と情報技術を調和させること、そして、工業教育を学ぶ生徒の育成にあると考える。ものづくりには、人間しか味わえない「つくる喜び」と「完成させる楽しみ」、すなわち、創造性を育む喜びが潜在しており、工業教育こそ「人づくりはものづくり、ものづくりはひとづくり」の教育ができると考える。

平成 11 年には工業高校と非常に関連のある「ものづくり基盤整備技術振興基本法」が制定され、全国工業高等学校長協会はこれに基づき、工業系各学科の生徒たちが自信と誇りをもって産業界で活躍することを奨励するため「ジュニアマイスター顕彰制度」を実施している。そして「ものづくり」の社会的機運を高める絶好の機会として、工業高校で取り組んでいる「ものづくり」学習を、都道府県大会からスタートし、全国大会へつなげている。それは技術・技能を競い合う「高校生ものづくり全国大会」であり、全国産業教育フェアにおける「ものづくり大会」でもある。一般の方に工業高校を知ってもらうための大きな PR になっている。

平成 12 年に制定された「ものづくり基盤技術基本計画」には、「工業高校を始めとする専門高校は我が国のものづくり基盤産業の担い手となる技術者を養成するという大きな役割を担っている。高度化などの技術革新の進展等に対応した教育内容の改善及び充実を図るとともに、産業教育担当の教員に対する各種研修機会の充実、優れた技能及び知識を有する熟練ものづくり労働者等の積極的な活用等を進めるほか、産業教育に係る実験・実習の施設・設備、製造現場における技術の進展等に対応した実習が可能となるよう整備を図ること、高校生のインターンシップの積極的な推進等」と記されている。法整備ができたことは、大変喜ばしいことである。

大阪府では、今年度から 12 の工業高校のうち、9 校が工科高校、3 校は多部制単位制高校（クリエイティブ・スクール）としてスタートし、①系を設置して、産業構造の変化、

技術の複合化など、柔軟に対応できるシステムの構築

②「深化」と「接続」

の基本方向をもとに工業に関する専門性の深化と大学等の高等教育機関への接続、③総合募集により、第 1 学年での体験的な学習とガイダンスを充実し、自らの生き方や進路を踏まえて、系の選択力の

育成に向け鋭意取り組んでいる。すばらしい改革結果が出て、中学生が「行きたい学校」として志願者が溢れることを期待している。

その一例として、大阪府立城東工科高校(前大阪府立城東工業高校校長)で進めているのは、「年齢、性別、ハンディキャップの有無などにかかわらず、安全で使いやすいものをつくろう」とのコンセプトに集約し、「ユニバーサルデザイン」を導入することである。「人にやさしい、人権感覚豊かなものづくり技術者」の育成を目標とする工業教育の実践がスタートし、新しい実習棟が 8 月に建つ。これは、設計アイデアコンペでなされたもので、生徒の変化、工業技術の進化を内包する実習棟で、ユニバーサルデザインの大切さを学んだ生徒たちの巣立ちを大変楽しみにしている。

最後に、第 16 回全国大会は、近畿支部主管で開催される。近畿支部全員が一丸となって、全国の会員に喜んでいただける大会となるよう努力している。大変お忙しい中、(株)島津製作所 矢嶋英敏会長のご講演を企画し、内諾いただいたところである。「企業経営も研究結果を追求する姿勢が必要」と主張されるとともに、田中耕一氏のノーベル賞受賞を育んだ企業のことにも触れていただく予定である。氏の熱い想いを多数の参加者で拝聴できるよう願っている。

